

1. サービス・ラーニングとは何か

サービス・ラーニングに関する定義は、「本家」のアメリカでも普遍的で共通のものがあるわけではありません。アメリカでサービス・ラーニングを中心的に推進している CNCS (Corporation for National and Community Service) の定義は以下の通りです。

- ① 学生が、十分に組織化され、コミュニティのニーズに基づいた活動への積極的な参加を通じて、学習し発達するための一つの方法である。
- ② 初等・中等・高等教育機関とコミュニティと協働で行われるものである。
- ③ 市民の責任感を育成することを目的とする
- ④ 学校カリキュラム等の一環として行われるものである。
- ⑤ 参加者が活動経験について振り返りをするための時間が計画の中に組み込まれ、実施される。

そのバックグラウンドには、認知・発達心理学、プラグマティズム哲学、そして市民参加によって社会や国家を形成してきたアメリカの歴史がありますが、教育思想的な源流はジョン・デューイであると言われています。デューイは、学習体験の核心は、学生が世界に関する結論を導き出すことができるプロジェクトまたは体験であると強調しており、本当に教育に役立つプロジェクトに必要な4つの基準を以下のように提案しています。

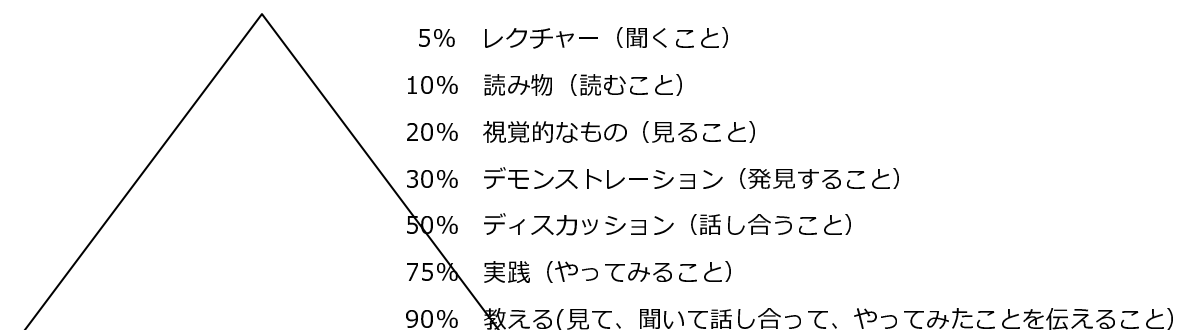
またサービス・ラーニングは、カリキュラムの中に統合されているという点において、いわゆる一般的なボランティア活動とは区別されます。

- ① 興味を生じさせる
- ② 本質的にやりがいがある
- ③ 新しい好奇心を起こし、情報の需要を生む問題を提供する
- ④ 相当なタイムスパンをカバーして、継続的に発達を促進することができる (『体験と教育』1933年)

これらのことは最近の学習科学の発展の中で実証されています (※)。

学習のピラミッド (学習手段と内容獲得の関係性)

知識を実践の中で活用し、そこで得たものを人に伝えることは、非常に学習効果が高いことが分かります。

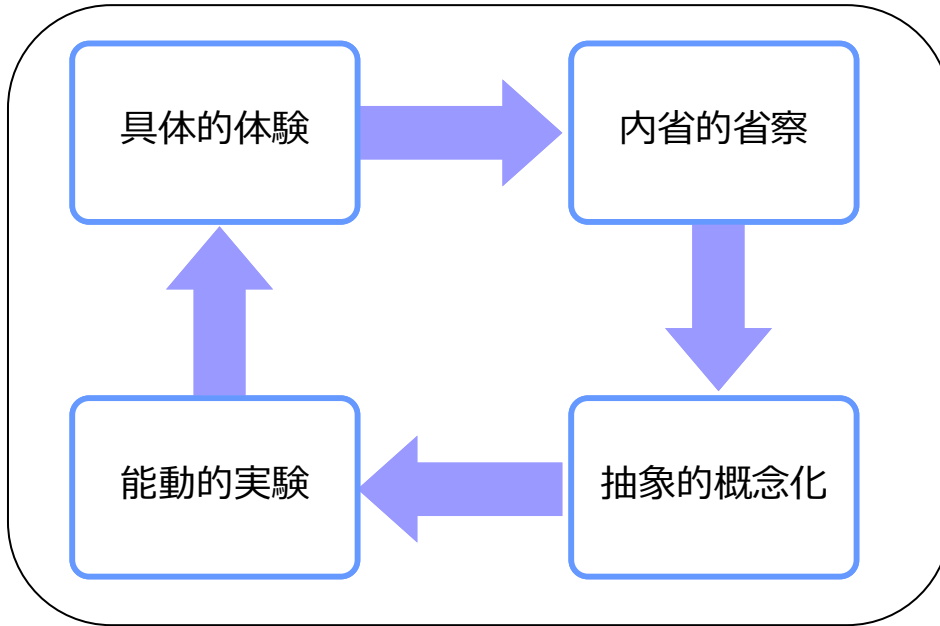


(米 National Training Laboratories より)

※例えば、“How People Learn: Brain, Mind, Experience, and School” national Research Council, by D. Bransford, Ann L. Brown, and Rodney R. Cocking, 1999. 訳本『授業を変える』北大路書房, 2002 参照。

米国学術研究推進会議が設置した学習科学の発展に関する委員会が学習科学の成果と教育実践とを結合するためにまとめたものです。

体験学習のプロセスを整理する際に参考になるのが、D.コルブの提唱したモデルです。



(1) 具体的な体験

コミュニティにおいて誰かのために何かをする。

(2.) 内省的な省察

活動を通して、何を見、聞き、考え、感じたかを内省し、分析する。

(3) 抽象的概念化

体験を通して得たものと、学校で学んだ知識や理論を照合する。自分の体験が全てだと思込まないようにする。

(4) 能動的な実験

自分たちの今後の生活や将来の中で、どのようなアクションを起こしていくかを考え、実践する。

アメリカの Cooperation for National Service はサービス・ラーニングのメリットを次のように説明しています。

- ① 高校・大学のもつ高度な知的・技術的・人的資源を提供してコミュニティの課題を提起し、市民社会や行政、社会貢献企業などと結びついて問題解決のために協働することで、高校・大学への認知と社会的な存在意義が高まる〔高校・大学への有効性〕。
- ② 教師が教える学問について、学生が教室で学んだ成果を活用して地域社会に貢献することで、学生がより学ぶことの意味や喜びを発見し、学問への意欲と関心を高め、授業への参加意識を高まることができる〔教師への有効性〕。
- ③ 学生たちは、学びの教室を地域社会へと大きく広げることで、アカデミズムの本質や社会的役割を理解しつつ、生活者や社会課題の実態に即した生きた学問が学べるとともに、学ぶ力を育み、学問への理解度を高めることができる〔学生への有効性〕。
- ④ 地域社会にとって、高校や大学のもつ専門的知識や技術、問題解決能力、学生の若いパワーなどの知的・人的資源が提供されることは、社会課題の解決や活力ある地域社会を創るために有効的であり、地域の必要不可欠な力である〔地域社会への有効性〕。

(「平成 18 年度青少年ボランティア活動等促進連絡協議会」(平成 18 年 11 月 17 日 主催/文部科学省・神奈川県)

配付資料より)